			~~ · · · · / · · ·
	23 果実の鮮度保持のための新技術開発		
課題名	包装フィルム及び鮮度保持剤を用いた巨峰の長	分類	1
	期貯蔵法		_
試験研	63~2年 (完了)		11.
究年次	03~2年(完了)		
IB	的		

巨峰の販売価格が高い年末出荷を可能にするため、長期貯蔵技術を確 立する。

Ⅱ 試験方法

- 1 供試品種 63年~2年に八女郡黒木町で生産された巨峰を供試した。 巨峰は早朝収穫し、直ちに農業総合試験場に搬入した。
- 2 試験区の構成
- (1) フィルムの厚さ 厚さ0.03nm、0.05nm、0.08nmポリエチレンフィルム ゼオライト混入フィルム密封包装

貯蔵条件 63年9月15日収穫、貯蔵温度 0℃

(2) 鮮 度 保 持 剤 長期用グレープガード(長期用GG)、短期用グレー プガード1/8シ-ト(短期用GG)、 塩素発生剤

貯蔵条件 63年9月15日収穫、貯蔵温度 0℃、 フィルム 0.05mmPE

(3) 貯 蔵 温 度 0℃、-2℃

貯蔵条件 1年9月16日収穫、74NA 0.05mmPE、短期用GG使用

(4) 収 穫 時 期 2年8月21日、8月31日、9月12日、9月20日 貯蔵条件 貯蔵温度 -2℃、フィルム 0.05mmPE、短期用GG使用

Ⅲ 主要成果の概要

巨峰を長期貯蔵するには8月中に収穫した果実を短期用GGとともに、厚 さ0.05mmのポリエチレンフィルムで密封包装し、-2℃の貯蔵庫で貯蔵する と良い。この場合、室温に戻しても4日間は販売可能な鮮度を保持すること ができる。

- 1 0℃貯蔵条件下ではフィルムの厚さに関係なく二酸化炭素濃度を低く 抑制できる。減量率はフィルムの厚さが厚いほど小さいがその差はわず かである。 作業性を考慮するとフィルムは厚さ0.05mmのポリエチレンフ イルムを用いるのが適当である。
- 2 短期用GGをフィルム内に封入するとカビの発生を抑制できる。
- 3 -2℃で貯蔵すると0℃より鮮度保持期間の延長効果が高い。
- 4 収穫時期が遅れると(9月中旬以降収穫)果実の品質、貯蔵性ともに悪 くなる。

IV 主要成果の具体的データ

第1表 フィルム内ガス濃度の経時変化(%)(63年)

試験区	項目	9/29	10/28	11/30	12/23
0.03mmPE	CO2	0.3	0.5	0.7	1.0
0.03mmre	02	21.0	21.1	21.1	20.2
0.05mmPE	CO2	1.0	1.7	1.5	1.9
U.USMMPE	0 2	19.3	17.6	19.4	20.0
0.08mmPE	CO2	1.7	3.6	3.0	2.9
U. VOMMFE	O ₂	17.7	12.9	14.2	16.0
セ"オライト	CO2	0.4	0.7	1.1	1.5
混入フィルム	O 2	21.4	20.9	21.0	20.6

注) 貯蔵条件:貯蔵温度0℃

第2表 鮮度保持剤とカビ発生度の経時変化 (63年)

試験区	10/6	10/27	11/10	12/8	1/6	-: 発生せず	
対照区	_	++	+++	+++	+++	生:極わずかに発生	生
短期用GG	_	_	_	_	-	+: 少し発生	
長期用GG	_	_	-	++	+++	++: 多発	
塩素発生剤	_	+	+	+:++	+++	+++: 全面に多発	

注) 貯蔵条件: 貯蔵温度 0℃、74NA 0.05mmPE

第3表 貯蔵温度と総合鮮度の経時変化 (1年)

貯蔵温度	項目	9/16	10/16	11/16	12/17	.1/18
0°C	平均	4.0	3.0	1.8	0.3	0.0
	SD	0.0	0.0	0.5	0.5	0.0
- 2 °C	平均	4.0	3.5	3.3	3,0	1.5
- Z C	SD	0.0	0.7	0.5	0.5	0.0

注) 貯蔵条件: フィルム 0.05mmPE、短期用GG使用

総合鮮度の指標 4:収穫時の鮮度 3:市場出荷可能 2:小売可能 1:食べられる

0:食べられない

第4表 収穫時期別総合鮮度の経時変化 (2年)

収穫日	10/5	11/7	12/3	12/18	1/8	
8月21日	4.0	3.8	3.2	2.5	2.3	
8月31日	3.5	3.0	3.0	2.7	2.2	
9月12日	3.8	3.2	3.0	2.2	1.8	
9月20日	3.7	2.8	2.8	2.7	1.3	

注) 貯蔵条件: 貯蔵温度 -2℃、74NA 0.05mmPE、短期用GG使用

V 成果の評価と取扱上の留意点

- 1 傷果を貯蔵した場合、果実が脱色しやすいため貯蔵用果実は厳選する必要がある。
- 2 出庫前にフィルムを開封し、GGを除去し1~2日経過後出荷すると 貯蔵臭を抑制できる。
- VI 今後の研究上の問題点

鮮度保持剤を使用しない巨峰の長期貯蔵。

Ⅷ 資料名

63年度~2年度 福岡県農業総合試験場 流通加工部成績書